

## 付 属 資 料

1. 主要面談者リスト
2. ボスニアプロ形調査団協議記録
3. 収集資料リスト
4. 橋梁調書及び写真集
5. 概算工事費の算定
6. 候補橋梁周辺状況
  - 6 - 1 概略図
  - 6 - 2 損傷状況図
  - 6 - 3 地雷除去必要範囲



## 1. 主要面談者リスト

ボスニア・ヘルツェゴヴィナ中央政府 (BiH) 外務省

ジェリコ・イエルクッチ次官補

エディン・シェヒッチ復興課長

ドラジェン・ガグリッチ復興課職員

ボスニア・ヘルツェゴヴィナ中央政府 (BiH) 民生通信省

ケマル・カルキン世銀プロジェクト実行局長

ボスニア・ヘルツェゴヴィナ連邦 (FD) 運輸通信省

ベシン・メフメディッチ大臣

アリフ・ディルベロビッチ道路局長

ニコラ・シェーゴ補佐官

ズラトコ・ハジハサノビッチ エンジニア

マイダ・コノジッチ エンジニア

ヴェスナ・ハジヴィッチ エンジニア

スルブスカ共和国 (RS) 運輸通信省

ドラガン・ミハイロビッチ道路副局長

ネボーシャ・ポストラン 道路維持管理局エンジニア

モルタル市

エミール・ヌスパヒッチ市交通通信課長

ヘビブ・リヤド市復興建設課長

IMG (International Management Group)

ネナッド・ニコリッチ (Head of Transport Unit)

EU (Delegation of the European Commission to BiH)

チャールス・パラシ (Task Manager)

SFOR

アラン・ワイトカス (Corps of Engineers)

ルパート・ホスキン (Staff Officer Engineer Operation)

ディリャーナ・トリヴァコビッチ (Senior Engineer Consultant)

## OHR

橋本敬市 (Political Advisor)

## USAID

ペーター・フルン (Deputy Director)

ドゥニア・アガノビッチ (Senior Engineer)

サミール・ディゾラール (Program Dept. Chief)

## 在オーストリア日本大使館

小田部耕治書記官

宮崎和政書記官

## 在 BiH 兼勤駐在官事務所

難波充典臨時代理大使

## JICA オーストリア事務所

富本幾文所長、中井正弘所員、七海明子所員、鶴崎恒雄企画調査員、相原泰章企画調査員

## BiH 運輸交通マスタープラン調査団

梅木好和副総括、金子正敏団員、上野紀雄団員

## 2. ボスニアプロ形調査団協議記録

日時 :12月6日 水曜 9:30-

場所 :JICA オーストリア事務所

出席者 : (オーストリア事務所) 富本所長、七海所員、相原企画調査員  
(調査団) 不破団長、伏見団員

(富本所長)

BiH 運輸交通マスタープラン調査(M/P)の調査団がボスニア政府に対する技術移転のためのセミナーを開催している(計3回)。11月24日のセミナー(第2回目)にてM/P調査団として優先プロジェクトと、その中からの意見としてプレ F/S 候補案件を示している(具体的には RS-04 と RS-10)。インテリムレポートは1月頃に取りまとめられる予定。

M/P 調査が20年後を見た計画であるのに対し、無償資金協力は緊急度が高く両者は性質の異なるものである。今回のプロ形調査がどちらのスタンスに立つのかということボスニア(BiH)側から聞かれる可能性がある。緊急復興支援から将来の需要を見込んだ経済発展支援に移行したという考え方でいいのではないかと思う。

現在、道路建機維持管理の専門家(塚田氏)がBiHで活動中であるが、同氏によると、それぞれのエンティティ政府にとって道路の維持管理コスト負担の問題があるとのこと。とくにFD側では十分な維持管理経費が確保されていないらしい。

モスタル市では市の東西で異なる民族が生活しており、バイパスをモスタル市の西側を通すか、東側を通すかによって各民族に与える便益がかわってくるので影響は大きい。M/P調査ではバイパスを市の東西両方をとおす形で環状バイパスを提案し、先方に評価されている。

内戦以前はBiH内の運輸交通の機関分担率は30%が鉄道、道路が60%であったが、現在では特に鉄道の路線等のインフラが疲弊しており鉄道の機関分担率はゼロに近く、道路が90%近くを分担している。

今回のプロ形調査での案件決定基準としてエンティティ間のバランスを考慮しなければならない。つまりエンティティ毎に採択される橋梁数だけではなく、金額やこれまでの実績や他ドナー全体の援助量も考慮した方がよい。

(当方)

今回のプロ形調査における対象橋梁案件の絞り込みに政府の合意が得られれば、無償のB/D調査に繋げやすいであろう。

対象橋梁は技術的な側面で絞り込みを行い、最終的に政治的な側面をいれることになろう。

日時 :12月6日 水曜 10:30-

場所 :在オーストリア日本国大使館

出席者:(先方)小田部書記官、宮崎書記官

(オーストリア事務所)富本所長、七海所員、相原企画調査員

(調査団)不破団長、伏見団員

(小田部一等書記官)

BiH に対しての支援は現在変化している。つまり1996年-1999年までの4年間は復興／復旧支援をメインに行ってきたが現在(2000年)は復興支援は縮小させていき、経済発展やEECや南東欧安定協定に関係した支援に移行している。

M/P 調査が出している優先路線にはエンティティ間のバランスも加味されているので、M/P 調査での優先路線を基準にすることである程度バランスも考慮されると考える。

FD 側から復旧の要請が出されているゴラジュデ橋については、サラエヴォーゴラジュデルートという軍事色のつよい路線に関係するので、RS 政府のミハイロビッチ道路副局長が懸念している。(ゴラジュデ橋は M/P の示すプライマリー1路線(エンティティ間道路)上に位置しているので FD 側の軍事路線とは言えないと思われる)。

(宮崎書記官)

橋梁案件を選定する場合、他国ドナーと関係になるようなものは他国ドナーの進捗状況に左右されるおそれがあるので、できれば日本の橋梁復旧で対象とする路線復旧が完結できる案件を選択した方がよいと思う。

BiH の北側(クロアチア国内)を通過する国際高速道路 E-70 に抜ける回廊上にある橋梁復旧は E-70 が東西ヨーロッパを繋ぐ重要回廊であることから優先案件と考えられる。

一方で、BiH の各エンティティからクロアチアやユーゴスラヴィアに抜ける路線は例えばクロアチア人がクロアチアに対する依存度を高めたり、セルビア人がユーゴスラヴィアに対する依存度を高め、BiH 国内の民族融和を阻害する要因ともなりかねないので注意が必要である。

日時 :12月9日 土曜 9:00-

場所 :BiHTMAP 事務所

出席者 :(先方)梅木副総括、上野氏

(調査団)不破団長、伏見団員、鶴崎企画調査員

(当方)

Q:M/P 優先道路のうちプレ F/S 対象路線が決定されるのはいつか？また、これを議事録確認(ミニッツ)するのか？

(先方)

A: RS 側とは R-04 を対象とすることは概ね合意されているが、FD 側については、モスタルーサラエヴォ間(R-10)とサラエヴォツツラ間(R-38)の 2 つの案がだされ、先方からどちらかを M/P 調査団に選択して欲しいといわれている。決定が難しい理由として、FD はムスリム人、クロアチア人の 2 民族があり、内部対立がある可能性がある。一方、M/P 調査団としては、2 月 8 日のセミナー(第 3 回目)でドラフト・ファイナル・レポートの内容を発表することが決まっており、スケジュールの関係もあって、FD 側のプレ F/S 路線を R-10 に決めて既に概略設計に取りかかっている。1月中旬に現地に戻ってきてから先方に伝えることになる。なお、R-04 の詳細なアライメントについては 4 つぐらいの選択肢がある。来年 2 月 8 日にドラフトファイナルを出すのでそれまでに決定される。プレ F/S の精度は 5 万分の 1 地形図上でのルート選定にとどまる。

(当方)

Q:クロアチアやユーゴに行ける回廊は例えばクロアチア人がクロアチアに対して、またセルビア人がユーゴスラヴィアに対する依存度を高める可能性があるという指摘があるが、M/P 調査ではこれらの路線はどのように位置付けているのか？

(先方)

A:M/P 調査では BiH が EU との統合をめざしているので、クロアチアやユーゴスラヴィアとの関係に対しての優先度はむしろ高くしている。ただし、国際幹線としての道路を主たる対象に考えているので一部地域の隣国との連結という視野では計画していない。

(当方)

Q:M/P 調査団からみてスポット的に橋梁復旧を行った方がよいと思われるところはあるか？

(先方)

A:テンポラリーにベイリー橋で補強している橋があるのでそういったところは必要と感じる。ただ、補強してある箇所は SFOR の優先度で位置決定しており(軍事目的である可能性がある)かならずしも経済発展に資する路線ではないかもしれない。

(当方)

Q:M/P 調査団がこれまで BiH と行った議論の中で民族問題に関するものの例を教えてください。

(先方)

A:やはり援助を行う際に民族間のバランスを考慮することであろう。例えば既に説明したとおりモスタル市を通過させるバイパスの位置を決める際、ムスリム人とクロアチア人両民族に裨益されるよう市の東西を通過させる案が評価されている。また、BiH の中央政府予算の分担率が FD が 2 に対し RS が 1 であることから国際的な援助を受ける際にも 2:1 の比率が暗黙の了解となっている。

日時 :12月11日 月曜 9:00-

場所 :BiH 外務省

出席者 : (先方)ジェリコ・イエルキッチ次官補、

エディン・シェヒッチ復興課長

(当方)不破団長、大石団員、伏見団員、大野団員、安川団員、

鶴崎企画調査員、相原企画調査員

(次官補)

M/P 調査のセミナーに参加したが、BiH の将来を見据えたプランが提示されとても興味深かった。異なるアプローチを見ることは大切であり、日本の BiH への協力に感謝している。また、12月18日予定のラップアップミーティングについては、中央政府と FD、RS 政府があつまって意見交換することはとても大切である。外務省としてもコーディネート機能を果たす為努力したい。

これまで公式または非公式にあげられている橋梁案件のプライオリティーについては、それぞれのエンティティと協議しなければならないと考える。具体的に何をいつ実施するのかが決まれば関係者(各エンティティ)のコーディネートが可能と思う。今回の調査団が滞在中に問題点をみつけてオファーしてもらえれば各エンティティとのコーディネートには最大の協力を行うつもりである。橋梁案件のプライオリティー付けに際してはそれぞれのエンティティを関与させ絞ることが大切。M/P 調査団が作成した将来の計画路線上の橋梁にプライオリティーをつけることは経済発展という意味で説明が可能とも思われるが地域のコネクションも同様に大切である。

(大石団員)

今回の調査団は例えば無償資金協力の対象案件を選択するようなコミットメントは行わず、日本の外務省に対して優良案件のリコメンデーションをするだけである。最終的に案件を採択するか、しないかを決定するのは日本の外務省である。日本側では BiH での復興支援(リハビリテーション)が終わったとは思っておらず、これから数年継続する意向である。

日時 :12月11日 月曜 10:00-

場所 :USAID

出席者 :(先方)ペーター・フルン (Deputy Director)

ドゥニア・アガノビッチ (Senior engineer)

サミール・ディズラール (Program Dept. Chief)

(当方)不破団長、大石団員、伏見団員、大野団員、安川団員、

鶴崎企画調査員、相原企画調査員

(先方)

USAID の BiH への援助は 1996 年から開始され、最初はメジャー路線にある橋梁の復旧を行った。1996 年以降この 4 年間でメジャー路線上の橋梁についてはほとんど復旧が完了していると考えており、最近ではマイナーなコミュニティー間を連結する橋梁の復旧に支援の対象がシフトしてきている。例えば難民帰還を支援する観点からマイノリティーリターンサポートが支援のメインとなってきている。最近では予算不足もありこうした比較的小規模な橋の復旧を行っている。つまりバイパス上や優先路線にある橋梁へのプライオリティー付けは行っていない。2001 年についてもこのコミュニティーベースの支援を実施する方針であるが具体的な支援にあたってはそのコミュニティーに戦犯者がいないことを条件としている。(プロゾール、フォチャ、パレの 3 コミュニティーについては戦犯者問題で米国の法的な縛りがあり支援できないとのこと)

USAID の援助目的は内戦前のインフラの状態に戻すことであり、現状路線での復旧を視野にしている。

なお、当初コミットしていた RS-01 (ムルコニッチ・グラッド橋)については予算不足によって実施を取りやめた。予算については 1 橋あたり 500,000 ドルを上限としている。

メジャー路線上で復旧の必要な橋梁については、クロアチアに抜ける回廊など RS 側にはまだある可能性がある。これらにかかる情報は IMG にて入手可能であろう。

USAID は実施にあたってはローカル・コントラクターを使いサブコントラクトを行っている。地雷はそれぞれのエンティティにマイン・アクション・センターがあるのでそこで対応してもらったらよい。USAID は民間会社にチェックを依頼している。

道路・橋梁の維持管理をそれぞれのエンティティ政府(運輸通信省)がおこなうのだが、予算不足で十分な活動がなされていないのが深刻な問題である。

日 時 :12月11日 月曜 11:30-

場 所 :FD 運輸通信省

出席者 : (先方)ベシン・メフメディッチ大臣

アリフ・ディルベロビッチ道路局長

(当方)不破団長、大石団員、伏見団員、大野団員、安川団員、

鶴崎企画調査員、相原企画調査員 通訳(Ms. ヴェリツァ・トゥルビッチ)

冒頭不破団長から今回のプロ形調査団の派遣目的及び日程について説明があり、12月16日(土)、17日(日)にFD側の現地踏査を実施する際のFD運輸通信省側からの同行者のアレンジを依頼した。調査団側ではFD側から要請されている14の橋梁案件のうちM/P調査団が示す優先路線にある橋梁にプライオリティーをつけている。具体的に5つ(FD-01、02、10、11、13)の橋梁を候補として考えていると説明した。

(局長)

FD側では14の要請をあげているのに対し、調査団側で5つの案件に絞っているが残りの9つの案件はもう対象にならないということであろうか。今回の調査団が案件の絞り込みに使っているM/P調査の優先路線はあくまで計画上のものであり、ローカルシステムについて考慮されていないと思う。計画路線ではなく現在の路線上の優先案件の協議をしたい。例えばFD-03、04、06、06はFDにとって重要な路線である。とくにFD-06の橋梁は1車線しかない。またFD-07、08は周辺道路は修復されているが橋はそのまま残されている。

国際路線もコミュニティーの道路も同じくらい重要である。なぜならコミュニティー道路は計画的なものではなく経済発展に直接寄与するものでないが民族の融和に資するし、地域住民にとって非常に重要な意味を持っている。

(大石団員)

本調査団は要請の出されている橋梁案件にプライオリティーをつけ日本の外務省にrecommendすることが任務であり、コミットメントを行うものではない。当方が確認したいのは14ある橋梁案件のうちどの橋梁が、なぜ重要であるかというFD側での優先度である。日本側は明確に優先基準(計画路線にある橋梁)と優先橋梁を述べているのであるから、FD側も同様にそのプライオリティー案件と優先基準を示してほしい。12月15日、16日、17日にFD側のサイト視察を行うのでそれまでに(12月14日中)お願いする。その結果をうけ、サイト視察を行うことになる。(大臣は関係者に協議が必要としながらもプライオリティー付けについては了解した)

日時 :12月11日 月曜 15:00-

場所 :IMG

出席者 :(先方)ネナッド・ニコリッチ (Head of Transport Unit)

(当方)不破団長、大石団員、伏見団員、大野団員、安川団員、  
鶴崎企画調査員、相原企画調査員

(先方)

12月13日(水)に12月のドナーコミティーが行われる予定でありドナーの援助実績の取りまとめの最新版を作成している。このリストを活用すれば今回の調査団が行う橋梁案件の絞り込みの際、すでに他ドナーが実施している橋梁案件との重複を防ぐことができるであろう。実際、IMGでは他ドナーの援助動向を把握しており、この5年間でドナー間の援助がバッティングするのをさけるのに貢献している。

ドナーによる主要路線にある橋梁の修復実績は60にのぼる。First priority とされるオラジェ、フロッド、グラディシュカ、ノビ・グラッド、ブルチコについては終了した。現在進行中案件としてシャーマッツがある。

しかしながらEUとしてもEmergency Transport Reconstruction Project は終了に近付いていると考えており、1年以内に完了するであろう。今後は sustainable development 等に支援がシフトされるであろう。

日時 :12月11日 月曜 16:00-

場所 :EU (Delegation of the European Commission to BiH)

出席者 :(先方)チャールズ・パラン(Task Manager)

(当方)不破団長、大石団員、伏見団員、大野団員、安川団員、  
鶴崎企画調査員、相原企画調査員

(先方)

EUが実施しているプロジェクトとして、シャーマツ(RSのクロアチア側)を現在実施中である。またラッチャ(北東国境)橋の復旧を要請されている。また難民帰還支援に資する案件も行っている。

EUのBiHへの協力は現在はgrantの支援を行っているが、今後はgrantは減少させ(おそらく12-20ヶ月の間に終了し)EIBの融資を通じたローンが援助のメインとなるであろう。現在EIBはtransportation centerをサポートしており、またサラエヴォ地区のバイパス(カントン道路)に融資を行っている。

日 時 :12月12日 火曜 11:30-

場 所 :ホテル・パラス

出席者 :(先方)難波臨時代理大使

(当方)不破団長、伏見団員、大野団員、安川団員

(難波臨時代理大使)

RS 政府からの無償資金協力の要請はあるが BiH についてはそろそろ無償の実施は困難となってきたように思える。今後は技術協力ヘシフトされるであろう。投資アドバイザー(投資関連法整備)専門家が欲しいと先方からもいわれている。無償の場合あれこれ異なるセクターに手を出さずに例えばバニャ・ルカでも好評であったバス供与を拡大するなどした方がよいのかもしれない。

BiH にとって川が重要であるのと同じく橋はとても重要である。川で街が分断されているモスタル市がよい例である。

運輸交通マスタープランは BiH 内だけでなく国際社会(援助機関)においても高い関心を得ている。

BiH では中央政府に政策決定権限がなくそれぞれのエンティティが国内での決定権をもっている。また FD などはカントンも存在しており、大統領など何人もいることが BiH の特殊性であろう。また、ブルチコ特別自治区は2つのエンティティから独立しており、3 民族が共存していることから民族共存の一つのモデルとなりえるかもしれない。

日 時 :12月12日 火曜 13:30-

場 所 :RS 運輸通信省プロジェクト実行局

出席者 :(先方)ドラガン・ミハイロビッチ (道路副局長)

ネボーシャ・ポストラン (道路維持管理局エンジニア)

(当方)不破団長、伏見団員、大野団員、安川団員、通訳(Ms. ヴェリッツァ・トゥルビッチ)

(副局長)

昨年 RS 側から提出された要請は他ドナーの支援などがあつたため、今年の9月に改訂し在サラエヴォ駐在官事務所へ提出した。内戦を挟んでの8年間のメンテナンス不足により道路はあれている。

今回の調査団が要請サイトを視察したあとに案件を絞りショートリストを作成することに対しては了解した。

13、14日と調査団が現地調査をするのに道路維持管理局のポストラン氏を同行させ、橋梁について説明させる。私は12日からサラエヴォに出張するが14、15日はバニャ・ルカに戻るののでその際に調査団が行ったサイト視察の結果について協議することは可能である。

(管理局エンジニア)

現在不通となっているエンティティ間を跨ぐ道路 E661 線にかかる橋梁は RS 側に1つ、FD 側に1つあり、共にイタリアの支援を受けている。RS 側の橋梁については修復は完了しており FD 側の修復をまって開通する。

RS にとって、東西に走る路線と南北に走る路線と2つの重要な路線がある(いずれもエンティティ内のみを通る路線)。道路についてはかなり修復はすすんでいるが橋梁はまだリハビリが必要である。

BiH では1996年から project of road and bridge rehabilitation が開始されたが、1996年から1998年までは RS は支援の対象外であり、1998年からようやくリハビリが開始され、WB,EBRD,USAID, SFOR 等から支援を受けている。

日本政府に出された14の要請は他ドナーによって着手されてないものである(その後 RS-06 については USAID によって支援されていることが判明し、取り下げられた)。

M/P 調査団がブレ F/S 対象としているプロジェクト R-04 上にある橋梁(RS-14)については、緊急復旧が必要であり、とても2年後の復旧を待ってられるような状態でないと思う(従って日本の支援を待たずにリハビリに着手する)。

調査団に依頼するのはエンティティ間のバランスに配慮してもらいたいということである。エンティティ間のバランスについて明確なポリシーをもってもらえるよう願う。つまり片方のエンティティだけに援助が偏らないよう配慮願いたい。

日 時 :12月14日 木曜 12:30-

場 所 :RS 運輸通信省

出席者 : (先方)ドラガン・ミハイロビッチ道路副局長

          ネボーシャ・ポストラン(道路維持管理局エンジニア)

          (当方)不破団長、伏見団員、大野団員、安川団員、鶴崎企画調査員、

          相原企画調査員、通訳(Ms. ヴェリッツァ・トゥルビッチ)

冒頭不破団長からサイト視察を行った結果 RS-02、03、13 が優良案件と思われる旨報告された。

(副局長)

日本の無償資金協力のシステムについて知っているが、おそらく今回の調査団が対象とする橋梁の復旧開始は 2003 年ごろになると思われる。今朝内部で打ち合わせを行ったが、RS-13 については緊急に復旧が必要であり 2003 年では遅すぎるので今回の対象から外し、他のファンドをあたるなどしたい。

RS 運輸通信省としては、RS-01、02、03 を優先路線としてあげたい。今回の調査団の final proposal としてこれらの案件が出された場合我々も合意することができる。RS からの要請は 2 つのカテゴリーに分けられると考える。つまり一つは内戦で破壊された橋梁の復旧 (reconstruction) であり、もうひとつは老朽化した橋梁の修復 (rehabilitation) である。

今回プライオリティーからもれてしまった橋梁については引き続き他ドナーに協力を要請していくつもりである。

(当方)

RS-02 については、現在でも交通量は多いが、不通となっているクロアチアとの国境(シャーマツ)が開通すれば交通量は 10、000 台/日程度となる。この橋は欧州第 5 回廊と呼ばれる BiH を南北にはしりクロアチアにある E-70 に繋がっている非常に大切な国際路線にある。

RS-01については reconstruction が必要であるのか rehabilitation が必要であるのか不明である。老朽の原因はおそらく原料(セメント)であろうが精査する必要がある。原因が明確にわかるまでは日本の Grant Aid の対象になりえないのではないかと。

(先方)

調査団から TOR を受け取りその項目に従ってローカルコンサルタントに RS-01橋梁の調査(原料等)を行わせることは可能である。RS-01への対策について日本の技術を学びたく、日本側が作成するドラフトデザインを見てみたい。

RS-13 については緊急復旧が必要であり RS 側で既に D/D を実施済み。前述のとおり日本の Grant Aid のタイミングからして今回の要請対象からは外すこととしている。

FD から要請が出されている FD-01 (ゴラジュデ) に対しては FD 側にとって緊急度の高いものであると考える。貴調査団がこの橋を FD 側でプライオリティーの高い橋として推薦しても RS 側として何ら支障はない。FD では既に 40 もの橋梁を復旧させているのにどうしてこの橋だけ着手されていないのか不思議にさえ思う。

日 時 :12月15日 金曜 14:00-

場 所 :FD 運輸通信省道路局

出席者 :(先方)アリフ・ディルベロビッチ 道路局長

ズラトコ・ハジハサノビッチ エンジニア

マイダ・コノジッチ エンジニア

ヴェスナ・ハジヴィッチ エンジニア

(当方)不破団長、伏見団員、大野団員、安川団員、鶴崎企画調査員、  
相原企画調査員、通訳 (Ms. ヴェリツァ・トルビッチ)

(局長)

FD にとって優先橋梁の 1 位はモスタル市都市交通整備の為のルチキ橋復旧である。この橋を復旧すればモスタル市内の橋は全て復旧され川を挟んで居住する 2 つの民族の融和に資する。第 2 位は M/P 調査が提案している優先路線にある橋である。第 3 位は地方道路上にある橋である。

日本側が日本独自の基準で評価しているのと同様に FD 側では FD 独自の基準にて要請案件橋梁にプライオリティー付けを行っている。FD 側のプライオリティーも考慮し優先順位付けの検討をお願いしたい。

(当方)

本調査団の橋梁案件絞り込みの基準は①内戦で破壊されたもの、②代替ルートが確保できないもの、③優先路線にあるもの、の 3 つであるのでルチキについては対象外となる。

また、鶴崎企画調査員からルチキ橋の付近には小さな集落しかなく裨益人口が少ない。しかも近くに歩道橋があるので代替のものがないとは言えない。また川を挟んだ市の東西で人口の多い場所は公共バスがリンクしており、この橋の緊急性については疑問があると補足説明があった。

日時 : 12月15日 金曜 16:00-

場所 : 在ボスニア駐在官事務所

出席者 : (SFOR)アラン・ワイトカス(Corps of Engineers)

ルパート・ホスキン(Staff Officer Engineer Operation)

ディリャーナ・トリヴァコビッチ(Senior Engineer Consultant)

(当方)不破団長、伏見団員、大野団員、安川団員、鶴崎企画調査員、

相原企画調査員、通訳(Ms. ヴェリツァ・トゥルビッチ)

(先方)

SFOR は緊急時に仮設橋を架けたり、橋を修復する際には同時にバイパスも確保している。橋梁の撤去を SFOR に依頼できるかとの問いに対しては、「SFOR が建てた仮設橋は撤去するが、倒壊した橋梁までは撤去できない」との回答。因に他ドナーでは部分的にしか倒壊橋梁の撤去を行っていないようである。

貴調査団が選んだ RS-02(ドボイ橋)については SFOR の仮設橋があるが重量車両がよく通過しており、FD と RS を繋ぐ道路として重要である。RS-03(モドリッチャ橋)についてはクロアチア国境のシャーマツ橋が完成すれば国際幹線道路上の橋として非常に重要な意味を持つこととなる。

FD-01(ゴラジュデ橋)は復旧の際、鉄道橋が迂回路として使われることになる。FD-10(プロゾール橋)はバイパスをつくっているところである。FD-13 については北回りの迂回路が容易に確保できると思われる。FD-11 は新しい橋梁の建設が必要であるが地方道路上にあり SFOR 自体はあまり重要な橋であると認識していない。

地雷については Mine Action Center が個々の橋梁付近の地雷情報をもっていると思う。SFOR が SFOR の活動以外の目的で地雷除去活動を行うことはない。ちなみにゴラジュデ地方は地理的に RS に包囲されている場所で地雷も多くあると考えられる。

日 時 :12月15日 金曜 15:30-

場 所 :OHR (Office of the High Representative)

出席者 : (先方)橋本敬市 (Political Advisor)

(当方)不破団長、伏見団員、大野団員、安川団員、鶴崎企画調査員、  
相原企画調査員、通訳 (Ms. ヴェリッツァ・トゥルビッチ)

(先方)

BiH に協力する場合に留意すべきこととして、エンティティ間のバランスの考慮と難民帰還を阻害するものへの協力の回避があげられる。

米国はカラジッチが潜伏しているといわれる RS 東部への支援は行っておらず、先の総選挙で第一党となった SDS からの入閣があった場合には RS への支援を取り止めるとしている。もし米国が支援を取り止めた場合には当然日本からの協力の仕方についても影響が出ることが予想される。

また RS の経済は破たん寸前であり、最低保障賃金も 80 マルク/月から 68 マルク/月へ下げられている。また、公務員(特に教職員)の給与も数カ月未払であることから公務員のストライキが続いている。

状況は FD 側も複雑であり最近の選挙ではムスリム人とクロアチア人の民族派が伸びてきている。

ゴラジュデ橋についていえば、RS 東部への支援がネガティブなものがあったのでこれまで他ドナーが着手していなかったということも考えられる。かつては OHR で具体的に支援の対象外とするべきコミュニティー等のリストがあったが現在は OHR の中でもっと RS に支援すべきという者もあり、RS 東部への支援をしたからといって国際社会から大袈裟に批判されることはないであろう。

日本が中央政府を通じた協力を行っているのに対し、中央政府を迂回する形で直接サラエヴォ県に対して協力を行っている「サラエヴォ地域経済構想」というものがある。これはエンティティを超えたサラエヴォ地域(戦前は BiH 全体の 60%の経済力を有していた)の経済的な発展に協力しようというものであり、ベルギッチサラエヴォ知事も前向きに進めていく意向があるようである。

日 時 :12月18日 月曜 9:00-

場 所 :BiH 外務省

出席者 : (先方)ボスニア・ヘルツェゴヴィナ中央政府(BiH)外務省

エディン・シェヒッチ復興課長

ドラジェン・ガグリッチ復興課職員

ボスニア・ヘルツェゴヴィナ中央政府(BiH)民生通信省

ケマル・カルキン世銀プロジェクト実行局長

ボスニア・ヘルツェゴヴィナ連邦(FD)運輸通信省

ベシン・メフメディッチ大臣

アリフ・ディルベロビッチ道路局長

スルプスカ共和国(RS)運輸通信省

ネボーシャ・ポストラン 道路維持管理局エンジニア

(当方)不破団長、大石団員、伏見団員、大野団員、安川団員、

鶴崎企画調査員、相原企画調査員、通訳(Ms. ヴェリツァ・トゥルビッチ)

(当方)

BiH 滞在中に行った政府関係者との協議、サイト踏査、国際機関からの情報収集の結果、ゴラジュデ橋、ドボイ橋、ボガティチ橋、モドリッチャ橋の4橋梁案件につき日本政府に無償資金協力の案件として推薦したい。選定基準として、M/P 調査によってあげられている国際路線や主要幹線上にある橋梁とした。これはこれらの橋梁は裨益対象者が多く、全ての民族に裨益があり、BiHの将来の経済発展に寄与できるからである。次にプロジェクトの規模として日本の無償資金協力に適したものであること、技術的な側面、他ドナーとのオーバーラップ回避、内戦による被災からの復興にあたるものを基準とした。

上記4つの橋梁案件以外にRS-01は原因不明のコンクリート落下など施工不良や原料不良がみられた。現在のコンクリートの劣化については更に詳細な分析をすることが必要であるが、今後日本側に当該分野で技術協力(専門家派遣等)を要請するのであれば大使館経由にて要請をあげて欲しい。

FDから要請があがっているルチキ橋は昨日モスタル市関係者と面談した際にルチキ橋は優先対象橋梁になり得ない旨説明した。その理由は他の優先橋梁が全ての民族が裨益を得られこれらの橋梁を使用する際のトリップ距離は100キロメートル以上あるのと比較して、ルチキ橋は裨益者が少なく、またモスタル市内では代替となる橋が存在しており市の交通は機能していることがあげられる。

今後、無償資金協力が実施されるか否かは日本の外務省が決定し、BiH側に採択をアナウン

スすることになる。無償資金協力の実施に際し、B/D 調査実施までに地雷を除去しその証明を得ておくこと、倒壊した橋梁の撤去は BiH 側の責任で行うこと、無償資金協力の手続きについてガイドラインから学んでおくことが条件となる。

(FD 運輸通信大臣)

民族が共存するモスタル市においてルチキ橋の復旧は民族融合の象徴となり得るのでこの橋の復旧に第1プライオリティーをおいているのでこの橋の復旧について検討をお願いしたい。

なお、本件については、ルチキ橋が他の優先橋梁と比してどうして優先度が高いのか具体的な説明を記し、別途文書にて大使館経由で日本政府に伝えるよう調査団側から助言をした。

日時 :12月19日 火曜 15:00-  
場所 :在オーストリア日本国大使館  
出席者:(先方)小田部書記官、宮崎書記官  
(オーストリア事務所)富本所長、七海所員  
(調査団)不破団長、伏見団員

(当方)

今回のプロ形調査の目的は BiH から要請のあがっている優先橋梁を絞り込み、外務省に推薦をすることにある。主要送電線復旧を WB が実施することになれば 2001 年度に B/D 実施の可能性はある。もしそうでなければ今回のプロ形調査と B/D 調査との間が1年以上空いてしまうおそれがあるので、在オーストリア大使館及び JICA オーストリア事務所にフォローをお願いしたい。

調査の結果、ゴラジュデ橋、ドボイ橋、ボガティチ橋、モドリツチャ橋の 4 橋梁案件につき日本政府に無償資金協力の案件として推薦したい。

これら 4 橋は IMG が取りまとめている緊急に復旧が必要とされる橋梁リストにふくまれており、国際社会でもその復旧が必要と認識されているものである。

RS 側で倒壊していない橋梁(ドボイ橋)については、BiH がその復興過程にあることからその復旧の意義は大きいと確信する。

優先橋梁の基準については主要幹線上にあるもの、無償資金協力としてふさわしい規模であること、技術的協力の側面があること(復旧が困難であり協力の必要性が高いこと)、他ドナーとのバッティングがないこと、復興支援にあたるものとした。

FD 側から強い要望があったルチキ橋の復旧については、おって文書にて先方政府から同橋復旧の具体的な理由がのべられた要請が大使館に提出されることとなっており、同橋復旧の必要性については外務省でご判断願いたい。

RS 側から要請があった 14 件のうち地方道路上にあるものは 2 件のみであった。M/P 調査のブレ F/S 対象となっている道路復旧はアライメントが確定されておらず同路線にある 3 つの橋梁については優先対象から外すこととした。また、RS-06 は USAID が支援することが決まっており、RS-13 については緊急復旧が必要であることから自分たちで復旧を検討することとした。RS-09 は無償案件としては規模が小さすぎる。

RS-02 はクロアチアを走る E-70 につながる欧州第 5 回廊上にあり、優先度が高く、今回の対象

とした。現状は2車線であるが将来需要を見込むと4車線の橋梁が必要と考える。RS-01は施工不良等に起因するコンクリートの劣化が激しい。RS側に原因調査の実施を促し、現地に残っているコンサルタントからその調査のTORをRSに伝えるよう依頼した。場合によっては技術協力の可能性もあると助言しておいた。

ラップアップ会議ではFD運輸通信大臣がルチキ橋復旧にこだわりを見せていた。これについて優先がつけられた橋梁に比してどういった基準で判断した場合ルチキ橋が重要であるのかを文書にて説明し大使館宛提出するようコメントした。

地雷については埋没の可能性もあるのでB/D調査の前に除去証明を取り付けるよう先方政府に依頼した。また、無償資金協力の条件を先方に示した。無償の制度を先方が理解していないと思えるので、在オーストリア大使館からも適宜説明をするなどのフォローをお願いしたい。

(小田部書記官)

プロ形実施から無償資金協力実施の間が空いてしまうと途中で潰れてしまう可能性がある。もともと将来計画を見込んで絞り込んだ案件であるのでもし他ドナーが援助に着手しなければニーズ自体は変わらないものとする。

以上

### 3. 収集資料リスト

Category	Title	Issued by
Report	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Emergency Transport Reconstruction Program, September and December</li> <li>2 EC Assistance to BiH, Program Information Sheet, 1996, 1997, 1998</li> <li>3 Reconstruction on road network in RS</li> <li>4 Application form for the Japan's grant aid FBiH project priorities for time 2000-2001 (14 bridges)</li> <li>5 Preliminary Study on the Emergency Reconstruction on the Lucki Bridge over the Neretva River in Mostor</li> </ol>	<p>IMG</p> <p>EU</p> <p>RS(Putivi Brochure)</p> <p>FD(14 Bridges)</p> <p>Mostar city</p>
Map	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Map of Land Mine</li> <li>2 Topographic map 1/200,000(color with contour)</li> <li>3 Topographic map 1/50,000, Location of RS Bridge No. 1</li> <li>4 Topographic map 1/50,000, Location of RS Bridge No. 2</li> <li>5 Topographic map 1/50,000, Location of RS Bridge No. 3</li> <li>6 Topographic map 1/50,000, Location of FD Bridge No. 1</li> <li>7 Topographic map 1/50,000, Location of FD Bridge No. 2</li> <li>8 Topographic map 1/50,000, Location of Bridge FD No. 10</li> <li>9 Topographic map 1/50,000, Location of FD Bridge No. 13</li> <li>10 Topographic map 1/50,000, Location of Bridge No. 3</li> <li>11 Topographic map 1/50,000, Location of RS Bridge No. 1</li> <li>12 Road Map in RS 1/500,000</li> <li>13 Location of Asphalt and Gravel Plants, and Bridges on arterial road</li> </ol>	<p>Mine Action Center(Copy)</p> <p>Geographic Institution in BiH</p> <p>Enlarged Copy(by RS)</p> <p>Enlarged Copy(by RS)</p> <p>Enlarged Copy(by RS)</p> <p>SFOR (Original)</p> <p>SFOR (Original)</p> <p>SFOR (Original)</p> <p>SFOR (Original)</p> <p>SFOR (Original)</p> <p>SFOR (Original)</p> <p>RS</p> <p>Road Dept.(FD )</p>
Table	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Priority Bridge, past assistance, budget of next fiscal year and bridge inventory</li> <li>2 List of Priority for Bridges in FD</li> <li>3 Past Record of Bridge Reconstruction in Municipality</li> </ol>	<p>Road Dept.(RS)</p> <p>USAID</p>
Others	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ZGP 50 years work catalogue(brochure) 2 books</li> <li>2 BCEOM-bridge construction unit(brochure)</li> <li>3 EU News Letter</li> <li>4 Answer to questionnaire by ZGP</li> <li>5 Answer to questionnaire by FD</li> <li>6 Answer to questionnaire by RS</li> <li>7 Pier Drawing of Gorazde Bridge</li> <li>8 Technical Standard (current standard and DIN/necessary parts only)</li> </ol>	<p>ZGP Sarajevo</p> <p>JICA (Wien)</p> <p>ZGP</p> <p>Road Dept.(RS)</p> <p>Road Dept.(FD)</p> <p>Road Dept.(FD)</p> <p>Road Dept.(RS)</p>